大切な税金の意味を考えてみましょう！ 特集 4

11月11日(月)～17日(日)は「税を知る週間」でした。この週間にちなみ11月12日(火)、所沢税務署管内の平成8年度「税に関する作文と標語の表彰式」が挙行され、中学・高校生の税に関する作文の2部門で狭山市の生徒5名が表彰されました。そこで、狭山市で初の最優秀・国税庁長官賞を受賞された西武学園文理高等学校1年生の加藤裕美さんの作文を紹介し、大切な税金の意味を、市民の皆さんとともに考えてみたいと思います。

国税庁長官賞を受ける加藤裕美さん

受賞者

◆高校生の作文国税庁長官賞・関東信越国税局管内で1名の受賞（西武学園文理高等学校・1年）加藤裕美さん

◆高校生の作文関東信越国税局長賞・関東信越国税局管内で16名の受賞（埼玉県立狭山経済高等学校・3年）小柳みぎわさん

◆中学生の作文所沢税務署長賞・所沢税務署管内で1名の受賞（西武学園文理中学校・2年）濵口裕江さん

◆中学生の作文所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞・所沢税務署管内で6名の受賞（狭山市立堀兼中学校・3年）大野真記子さん、（西武学園文理中学校・3年）松島智さん

作品応募総数

（関東信越国税局管内）

◆高校生の税に関する作文…98校・8千737作品

◆中学生の税に関する作文…926校・6万5千273作品

◆中学生の税に関する標語…1千272校・27万4千339作品

NO.1

ありがとう税金

西武学園文理高等学校
1年E2組・加藤　裕美

「ピーポーピーポー、ピーポー」
一台の救急車が私たちの目の前に止まった。そして祖母が運ばれた。続いて伯父と伯母、母が乗り込んだ。
（大丈夫だろうか…）
みんなそんな思いで見詰めていた。
福島の祖母が倒れたのは、ちょうど私たちが遊びに行っているときだった。祖母は前々から心臓が弱く、何度も入退院を繰り返していたのだが、目の前で祖母が倒れるのを見たのは初めてで、気が動転して何もすることができなかった。しかし伯母たちが救急車を呼んでくれたお陰で、祖母は一命を取り留めた。私たちは取り敢えずほっとして残りの休暇を過ごした。

NO.2

ところが暫くして祖母の御見舞いに行ったとき、私は看護婦さんからこんなことを聞いたのだ。
「ほんとうに大事に至らなくてよかったですね。もう少し病院に着くのが遅かったらどうなっていたか分かりませんよ。」
祖母はどうなっていたか分からない…。
今思えば、看護婦さんのこの言葉が私に考えるきっかけを与えてくれたのだと思う。救急車があること、救急隊員がいることは、今まであたりまえのことと思っていたが、実は人の命を救うという無くてはならない大切なはたらきをしていることに気が付いた。
では、どうしてそんな活動ができるのだろうか。一刻も早く診てもらいたい患者がいるときに、いちいち〝救急車代〟や〝救急隊員費〟など払っていたら間に合う患者も間に合わなくなってしまうかも知れない。そこで私は父に聞いてみることにした。

NO.3

「福島のおばあちゃんが倒れたときに、すぐに救急車が来て病院に運んでくれたのは、税金のおかげなんだ。税金があるからだれでも救急車に乗せられることができるし、おばあちゃんもそのおかげで助かったんだよ。」
私は父の話を聞いて、税金のありがたさをしみじみと感じた。そして、祖母が助かったという事実を体験して「税金があって本当によかった」ということを、改めて心の底から実感した。
税金はこうした暮らしの安全を守るためだけではなく、私たちがよりよい暮らしをできるために考えられ、さまざまなよいことに使われている。例えば、朝起きて顔を洗うと水道から水が出る。トイレに行けば下水道が通っている。学校の行き帰りには、道路が整備されていて、交通事故など起こらないように注意が払われている。また、事故が起こったとしても、警察が駆け付けて公正な指示を出してくれる。そしてケガ人は即座に病院へ運んでもらえる。学校の帰りは暗くないように街路灯

表彰を受けた市内在校生徒（写真右から加藤さん、小柳さん、濵口さん、大野さん、松島さん・所沢のエクセルホールにて）

NO.4

が設置されている。さらに環境保護や毎日のゴミの処理、社会保障までしてくれているのだ。これからのことすべては、私たちの生活の土台となっているものであり、どれも私たちの生活と深く関わって欠かすことのできない大切なものだと思う。
では税金が無くなったらどうなるだろうか。私たちは毎日、あるいは毎月納めているさまざまな税金を納めずに済むので、幾分か収入は増えることになる。しかしどうだろうか。今まで生活の土台となっていたものが、すべて失われてしまうのだ。水を使うにしても、井戸を掘ったり、川までくみに行かなければならない。またそれらの水は、よく消毒されていないので、たちまち伝染病が流行ってしまうだろう。道路も整備されないので舗装道路などとてもなく、砂利道や野道を走ることになるだろう。信号や歩道、横断歩道もないから交通事故は多発し、また救急車がないので、死亡事故も多くなる。そして、警察というものがない

NO.5

から社会は悪であふれ、大パニックを巻き起こし、最悪の生活を送ることになる。
〝平和大国〟、〝豊かな国〟と言われていた日本が、まるで原始時代のような生活をするのだ。そんな哀切な暮らしが想像できるだろうか…。
このことを考えたら、私たちの暮らしはまさに〝税金あっての暮らし〟ということが分かった。
私たちの住みよい暮らしをつくるためには、やはりそれに見合った財源が必要なのだ。その財源に当たるのが税金であり、それは私たちの生活に無くてはならないものとして、形を変えて役立っている。だから、税を納めないということは、自分たちの幸せな生活の元手を失うことであり、つまり、自らの首を絞めるということだと思う。このことは同時に、豊かな生活は私たち一人ひとりの手で作られていることも、証明している。一人ひとりが納めた税金が集まって、橋を架けたり縁を増やした

NO.6

りすることができるのだ。だから私も、今までは消費税など払うときこまかくて面倒だったが、これからはその一円一円にも私たちの暮らしがかかっていることを、身に染みて払おうと思う。そうする心が大事だと思う。
これからの社会は科学的にも進歩を遂げ、さまざまな機械が開発されてますます便利な社会となるだろう。しかし、それとともに日本では、平均寿命の伸びなどにより、急速に老年人口の総人口に占める割合が増えている。
二〇二五年には四人に一人が高齢者になると推計されているそうだ。また、その一方で出産率の低下もあり、働き手が減ることを考えると、将来私たち一人あたりの負担費用は増えていくだろう。しかし、増えるお年寄りの生活を充実させることは大切なことだ。もしも、生活を悪化させてしまったら、体は衰弱していて働けないので収入は得られず、たちまち生きていけなくなってしまうだろう。そうならないためにも、体が丈夫な若い私たちが、そ

NO.7

の分一生懸命働いて、賄っていかなければならないのだ。そこには、もはや個人の利害心などは持っていてはならない。社会全体で一丸となって「一仲間どうし助け合って行こう」と思うことが、これからの社会に必要とされていることだと思う。
ふとしたことから学んだ税金だが、この経験で私が得たものは大きいと思う。これからは、国民、市民の一員としての義務をしっかり受けとめ、果たしていきたい。そして、将来大人になって、今よりもたくさん払う時がきたら、その重要性をしっかり理解し、暮らしを支えてもらっていることを感謝して払いたい。
幸い、祖母の容体も順調に回復してきている。私の心の中では、祖母を救ってくれた税金としてではなく、過去、現在、未来と、いつでもだれのためにも役立っている税金として、感謝したい。

ありがとう税金。

大切な税金は私たちの暮らしを豊かにする財源です

私たち市民が安心して生活していくためには、治安の維持とか洪水の防止とか、私たち個人や民間の団体だけではできない公共的なサービスがいろいろと必要となっています。そのために財源（税金）の確保は不可欠な条件となり、税金は共同社会を維持するための言わば会費であるということになります。そのため、私たちは、単に国民の義務として税金を納めるだけでなく、税金の意味を知ることも大切なことと思います。今回ご紹介した作文は、その意味でも税金の大切さが体験により理解できたものと思われます。今後も市では税金の目的や使い道など税金に関するお知らせを広報さやまでお届けしていきたいと考えていますので、引き続き市民の皆さんのご理解ご協力をお願いいたします。

問い合わせ市民税課税制係へ　内線１１４